フロアブル剤の具体的散布例

①10a（30m×33m）の水田に、500mℓの水田用初期除草剤（フロアブル剤）を散布する場合、1秒間散布で20箇所散布となります。4畦畔（あぜ）で歩く距離は、126mですから、20回散布するには、6.3m（7～8歩）間隔に1回、1秒間散布してください。

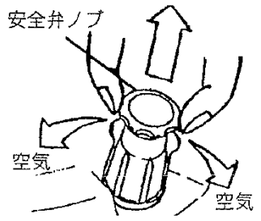
②20a（30m×67m）の水田に、1ℓの水田用初期除草剤（フロアブル剤）を散布する場合、1秒間散布で40箇所散布となります。4畦畔（あぜ）で歩く距離は、194mですから、40回散布するには、5m（6～7歩）間隔に1回、1秒間散布してください。

③30a（30m×100m）の水田に1、.5ℓの水田用初期除草剤（フロアブル剤）を散布する場合、1秒間散布で60箇所散布となります。4畦畔（あぜ）で歩く距離は、260mですから、60回散布するには、4.3m（5～6歩）間隔に1回、1秒間散布してください。

※無風状態での薬剤散布到達距離は7～8mです。水田用初期除草剤（フロアブル剤）は、有効成分が散布されない部分にも拡散しますので、幅30～35m程度の水田であれば、畦畔（あぜ）からの散布で、充分な除草効果が発揮されます。

⚠使用後の手入れと保管

①作業が終わったら



1.安全弁ノブを上に引っ張り、「シュー」という音がしなくなるまで空気を逃がし、圧力を抜きます。

2.タンク内を充分に洗浄し、更に清水を入れ1分間以上噴霧し、タンク内の水を払ってください。

⚠※薬液や空気が噴き出す恐れがありますので、ポンプや接続部を外す前に安全弁ノブを引っ張り、タンク～レバーコックの圧力を抜いてください。

⚠※機械の洗浄水は水田に流し、河川・水源地・下水等に流入しないように注意してください。

⚠※除草剤の散布は、専用タンク・ノズルを使用してください。

②保管

⚠ 屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所にしてください。

※プラスチック部品は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下することがあります。また注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので、保管には充分注意してください。

※タンクは、紫外線により劣化しますので、使用開始後4年をめどに新品と交換してください。

故　障　と　修　理　方　法

内　　容	原　　因	処　　置
ポンプの動きが悪い	●ピストンOリング②の油切れ	○ピストンOリング②に少量注油する
ハンドル操作が重い、または、ハンドルが押し戻される	●エア流入弁⑤のゴミ詰まり、または劣化、老化	○エア流入弁を掃除する、または新品と交換する
圧力が上がらない、または、空気の漏れる音がする	●ネジ部より空気が漏れる ●Oリング②の油切れまたは劣化、老化 ●Oリング③の油切れまたは劣化、老化	○各ネジ部を締め付ける ○Oリング②に注油する、または新品と交換する ○Oリング③に注油する、または新品と交換する
液の出が悪い、または、噴霧状態が悪い	●加圧不足 ●ネジ部より空気が漏れる ●ノズルチップ⑱へのゴミの付着	○加圧する ○各ネジ部を締め付ける ○ノズルチップ⑱を掃除する
液が止まらない	●レバーコック⑬のゴミ詰まり	○レバーコック⑬を掃除する
レバーコックニギリ部より液が漏れる	●コック取付ナットのゆるみ	○レバーコックニギリのネジをゆるめて外し、コック取付ナットを増し締めする

⚠ 修理を行う場合は、事前に安全弁ノブを上に引っ張り、タンク内の圧力を抜いてください。また、ノズルチップの掃除を行う際は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーコックを停止の状態としてから行ってください。

※Oリングを交換する際は、必ずOリング全面に注油してください。
※注油には、エンジン油、または、ギヤ油を使用してください。
※上記処置を行っても直らない場合、または、上記以外の症状の場合は販売店にご相談ください。

フロアブル剤専用 MODEL：F-2.5 蓄圧式散布器取扱説明書

ヤマト農磁株式会社
〒270-0163
千葉県流山市南流山1-2-3　小嶋ビル1F
TEL 04-7157-3752　FAX04-7157-7901

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い上げの販売店にご注文いただき大切に保管してください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や、機械に貼られた⚠の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。また、⚠の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い上げの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

⚠安全のために必ずお守りください

作業の前に

・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
　・酒気をおびた者
　・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
　・妊娠中の者
　・満15歳未満の者
　・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
・作業前に各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。
・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
・この製品を他人に貸与、または、譲渡する場合は、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するように指導してください。
・散布器を持ち運びする際は、必ずハンドルとポンプがロックされていることを確認してください。

農薬の取り扱い

・使用前にラベルや説明書をよく読んでください。
・ラベル、説明書の記載以外には使用しないでください。
・本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
・マスク、手袋など防護具を着用してください。
・圃場の外に飛散、流出しないよう使用してください。
・空容器は正しく処分してください。
・食品と区別してカギをかけて保管してください。

作　業　中

・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず、危険のない服装で作業を行ってください。
・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
・作業中、作業後にめまい、頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった時は、直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
・安全弁が作動したら、加圧を中止してください。
・加圧した状態で、長時間放置しないでください。
・作業中にノズル部を清掃する時は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーコックを停止状態にしてから行ってください。

作業後と保管

・タンク～レバーコックが加圧された状態で、ポンプや接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがあります。ポンプや接続部を外す前に、安全弁ノブを引っ張り、タンク～レバーコックの圧力を抜いてください。
・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに、目の水洗いと、うがいをしてください。また、作業期間中は、衣服を毎日取り替えてください。
・機械の洗浄水は水田に流し、河川・水源地・下水等に流入しないよう注意してください。
・使用後は、充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

680002570-2011.11

仕　様

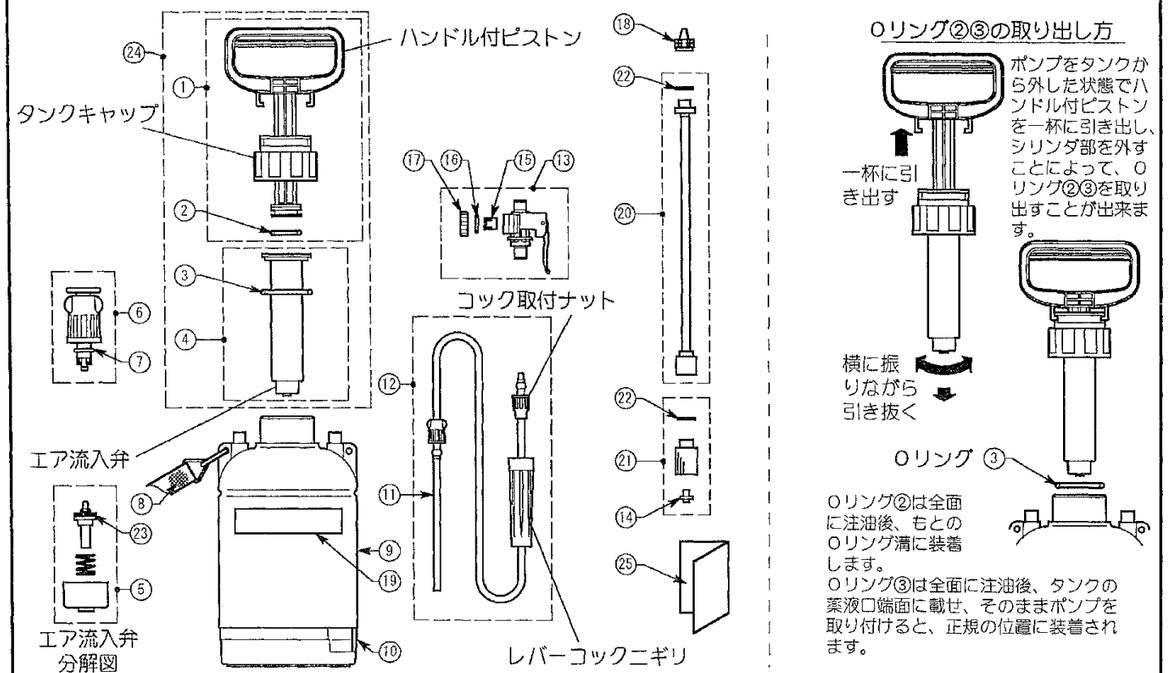
	蓄圧式散布器　フロアブル剤専用2.5ℓ
本体寸法	408×150mm（高さ×タンク直径）
最大液容量	2.5ℓ
タンク容量	3.8ℓ
ノズル長さ	400mm
安全弁設定圧力	0.4MPa
吐出ホース長さ	1.0m
主要部材質	タンク：高密度ポリエチレン　　ポンプ部：ポリプロピレン その他：ポリプロピレン、ポリアセタール、ステンレス、黄銅

フロアブルノズル性能

薬剤到達距離：7～10m （薬液2.5ℓで30～40回加圧時）	吐出量：25mℓ/秒 （薬液2.5ℓで30～40回加圧時）

※注）到達距離と吐出量は加圧回数と作業時の環境により変化します。

分　解　図



Oリング②③の取り出し方

ポンプをタンクから外した状態でハンドル付ピストンを一杯に引き出し、シリンダ部を外すことによって、Oリング②③を取り出すことが出来ます。

Oリング②は全面に注油後、もとのOリング溝に装着します。
Oリング③は全面に注油後、タンクの薬液口端面に載せ、そのままポンプを取り付けると、正規の位置に装着されます。

蓄圧式散布器用部品

記号	名　称	記号	名　称	記号	名　称
1	ハンドル付ピストン一式	10	スカート	19	注意表示ラベル（689030350）
2	Oリング P-24	11	吸水ホース	20	継ノズルパイプ　G1/4-400
3	Oリング P-42	12	吐出・吸水ホース一式2.5ℓ用	21	異径金具　G1/4×M16
4	シリンダー式	13	レバーコック一式	22	パッキン（15.5×11.5×1.5）
5	エア流入弁一式	14	弁パッキン	23	エア流入パッキン
6	安全弁一式	15	ストレーナ	24	ポンプ一式
7	Oリング P-9	16	Oリング JASO2017	25	取扱説明書
8	肩掛バンド	17	レバーコックキャップ		
9	タンク2.5ℓ	18	フロアブルノズルチップ		

標準付属品：取扱説明書　1部

⚠安全作業の服装

・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず、危険のない服装で作業を行ってください。

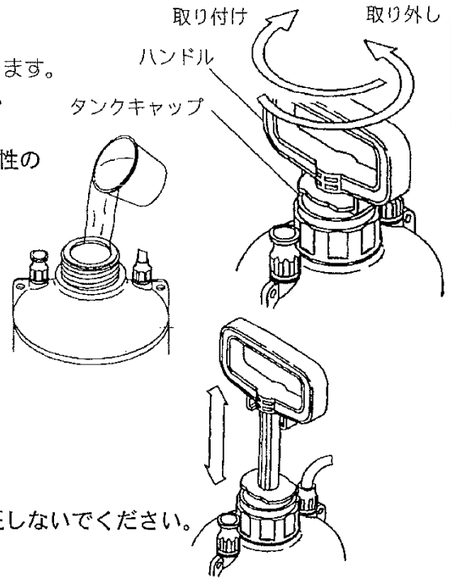
使　用　方　法

①部品の取付

分解図を参照して、異径金具をレバーコックのオネジにしっかりとねじ込み、継ノズルパイプ、フロアブルノズルチップを取り付けます。（弁パッキンが、異径金具に取り付けられていることを確認してください。）

⚠※作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。
⚠※安全性を損なう恐れがありますので、付属のホース、コック、ノズルパイプ、ノズルは他の用途（動力噴霧機での使用、コンプレッサでの使用等）には使用しないでください。
⚠※破損の恐れがありますので、ホースを無理にねじったり、引っ張ったり、曲げたりしないでください。

②薬液の入れ方



1．ハンドルをタンクキャップにロックし、回してポンプを取り外します。
⚠※薬液を入れる前に、コックは必ず停止の状態にしてください。
2．除草剤（フロアブル剤）を原液のままタンクに入れます。
⚠※安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。
⚠※薬液は最大目盛り以上入れないでください。
最大液量目盛り　【2.5】
3．ポンプを回して取り付けます。
⚠※薬液を入れたら、すぐにポンプを取り付けてください。
・ポンプは、空気が漏れないよう充分締め付けてください。

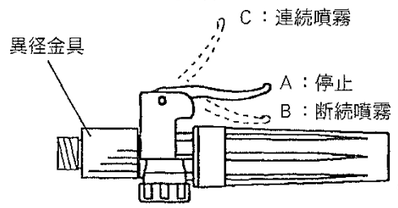
③加圧します

ハンドルを上下させ加圧します。

⚠※加圧は、安全弁が作動するまで行う必要は有りません。
適正な加圧回数【約30～40回】
⚠※0.4MPaで、安全弁が自動的に作動しますが、必要以上に加圧しないでください。

④噴霧します

1．レバーコックの操作



・Aの位置が停止です。
・Bの位置にすると噴霧し、レバーを放すとAの位置に戻り、噴霧は停止します。（断続噴霧）
・Cの位置で連続して噴霧します。（連続噴霧）

⚠※噴霧作業中以外は、レバーコックを停止の状態にしてください。
⚠※レバーコックを吐出の状態にするときは、周囲の状況を充分確認してください。
作業中以外は、レバーコックを停止の状態にしてください。
⚠※作業中にめまい、頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった時は、直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
⚠※タンク～レバーコックが加圧された状態で、接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがあります。接続部を外す前に、安全弁ノブを引っ張り、タンク～レバーコックの圧力を抜いてください。
⚠※コックを停止の状態で、必要以上に加圧しないでください。
⚠※加圧した状態で、長時間放置しないでください。